

3-2 昇降方式の選択方法

1. 立体横断施設を移動等円滑化する場合は、階段とともにエレベーターを設けるものとする。
2. 昇降の高さが低い等やむを得ない場合は、エレベーターに代えて傾斜路を設けることができる。
3. 階段およびエレベーターを有する移動等円滑化された立体横断施設において、高齢者、障がい者等の交通の状況により、必要と認められる場合は、エレベーターの大型化、増設、または、エスカレーターの設置を検討する。

移動等円滑化された立体横断施設には、新設、既設、又は利用者層に関わらず、エレベーターを設置することとする。

沿道の建築物に直接接続する場合などのように、昇降の高さが低くエレベーターの設置が物理的・構造的に困難な場合は、傾斜路をもってこれに代えることができるものとする。なお、エレベーターの一般的な設置可能な昇降の高さは、出入口が同一方向にある通常タイプで2.5m程度以上、出入口が同一方向にないウォークスルー型エレベーターではこれ以下の高さでも自由に設定可能である。

また、エレベーターを利用する高齢者や障がい者等の交通量の状況により、必要と認められる場合は、エレベーターの大型化、増設を検討する必要がある。(参考資料参照)

さらに、高齢者、障がい者等を含む歩行者全体の立体横断施設の利用が特に多く設置が可能な場合においては、輸送能力が高いエスカレーターを補完的な施設として設置することを検討する。

道路用地に余裕があり、歩行者動線を著しく阻害せず、かつ近傍に迂回可能な路上横断施設等がない場合は、階段、エレベーターとともに傾斜路を設けることを検討する。

なお、管理者の操作が必要な簡易リフト等は、考慮しないものとする。

次頁に昇降方法選択の選定フローを参考に示す。

また、立体横断施設にエレベーターを併設した事例を写真3-2-1に示す。



写真3-2-1 エレベーターの併設例

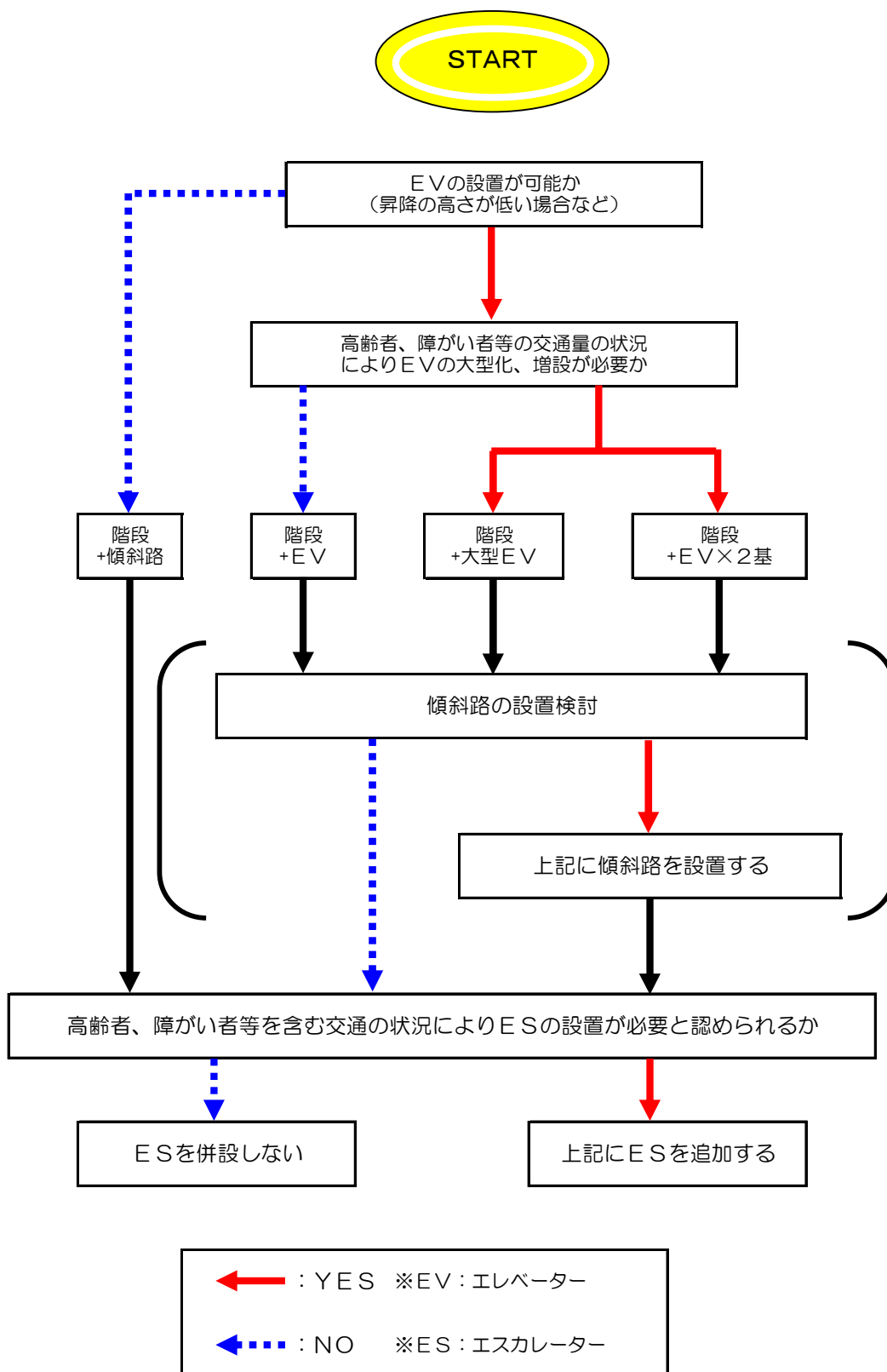


図3-2-1 立体横断施設の昇降方法選択フロー

参考資料

参考：エレベーター、エスカレーターの輸送能力

■エレベーターの輸送能力

エレベーターの輸送能力は、定員、車いす使用者の乗降状況から次のように試算される。

表 車いす使用者が常時乗降する場合の輸送能力

| | 車いす使用者が 常時乗降（一人） |
|--------------------|---------------------|
| P-11-CO (定員11名) | 230~350人/h |
| P-15-CO (定員15名) | 300~340人/h |

※設定条件・昇降高さ：5.5m（車道の建築限界 4.5m+歩道橋上部工 1m）

・昇降速度：45m/min（昇降高さ 5.5m程度の場合の標準的な速度）

参考資料：メーカーヒアリング結果

■エスカレーターの輸送能力

表 エスカレーターの輸送能力

| | 輸送能力 |
|-------------------|----------------|
| 800型 (幅80cm) | 4,500~6,000人/h |
| 1200型 (幅120cm) | 9,000人/h |

参考資料：メーカーヒアリング結果

■エレベーターの規格（JIS A 4301）

表 ロープ式エレベーターのかごの寸法

| 記号 | 積載重量 [kg] | 最大定員 [人] | かごの内法寸法 [mm] | | 有効 出入口幅 [mm] |
|---------|--------------|-------------|-----------------|-------|--------------------|
| | | | 間口 | 奥行き | |
| P-11-CO | 750 | 11 | 1,400 | 1,350 | 800 |
| P-13-CO | 900 | 13 | 1,600 | 1,350 | 900 |
| P-15-CO | 1,000 | 15 | 1,600 | 1,500 | 900 |
| | | | 1,800 | 1,300 | 1,000 |
| P-17-CO | 1,150 | 17 | 1,800 | 1,500 | 1,000 |
| | | | 2,000 | 1,350 | 1,100 |
| P-20-CO | 1,350 | 20 | 1,800 | 1,700 | 1,000 |
| | | | 2,000 | 1,500 | 1,100 |
| P-24-CO | 1,600 | 24 | 2,000 | 1,750 | 1,100 |
| | | | 2,150 | 1,600 | 1,100 |